

# 令和6年度 糖尿病連携手帳（連携パス）利用状況調査票

資料 1

回答は電子申請（以下 URL）またはFAXで回答してください。

1 電子申請の場合 下記 URL またはQRコードから回答してください。

<https://shinsei.pref.kagoshima.jp/SksJuminWeb/EntryForm?id=uu23VkfN>



2 FAX送信の場合 以下の質問項目を記入の上まで回答してください。

返送先 北薩地域振興局保健福祉環境部健康企画課 企画管理係

FAX番号 0996-20-2127

所属名	TEL
担当者名	

（1）令和5年度中の糖尿病患者の、糖尿病連携手帳（連携パス）の活用状況で最も当たるるものに○をお願いします。

- （ ）大半の患者が連携手帳を持参している （ ）約半数の患者が連携手帳を持参している  
（ ）ほとんどの患者が連携手帳を持参しない

（2）糖尿病連携手帳（連携パス）の令和5年度の発行者数を教えてください。（新規・再発行を含む）

（令和5年4月1日～令和6年3月31日まで） 約（ ）人

（3）糖尿病連携手帳（連携パス）を利用されている患者数（概数）を教えてください。（ ）人

（4）糖尿病連携手帳（連携パス）を活用していますか。

- （ ）活用している （ ）活用していない

➡「活用している」と回答された方にお尋ねします。

（4）－1 糖尿病連携手帳（連携パス）のどの項目を活用していますか？（複数回答可）

よく見る項目には□を、記載する項目は○をつけてください。

見る	記載する	項目	見る	記載する		見る	記載する	項目
		基本情報			HbA1cのコントロール経過表			療養指導の記録
		検査結果欄			治療スケジュール表（検査計画）			メモ
		合併症関連検査			眼科・歯科			

（4）－2 糖尿病連携手帳（連携パス）の具体的な日頃の活用方法を教えてください。

（4）－3 糖尿病連携手帳（連携パス）を使ってみて良かった事等エピソードがあればお書きください。

（4）－4 糖尿病連携手帳（連携パス）について、他関係機関に求める記載内容についてお書きください。

（例えば、「インスリンをいつから使っているか」、「低血糖の発生有無・頻度」等の情報。）

（4）－5 その他糖尿病の地域医療連携に関しての御意見があればお書きください。

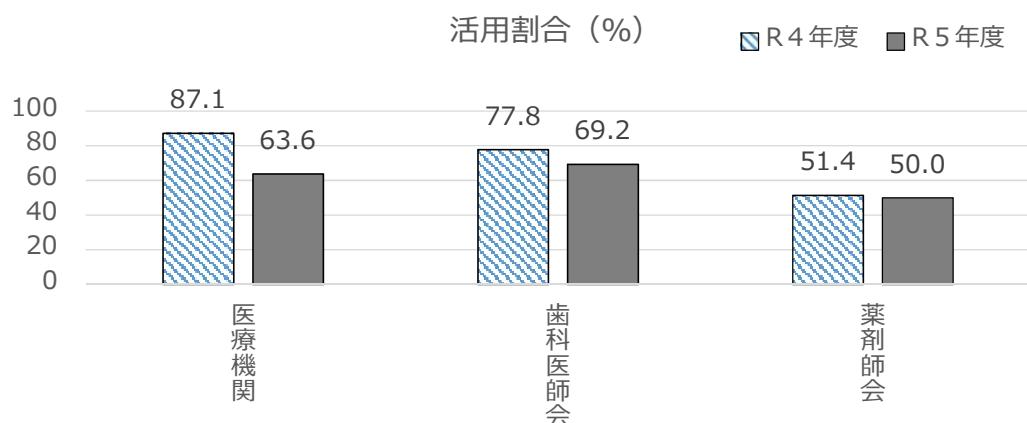
**令和5年度 糖尿病連携手帳（連携パス）利用状況調査結果**  
(令和5年4月1日～令和6年3月31日の実績)

(1) 回収率

	配布数	回収数	回収率(%)	昨年度回収率(%)
参加医療機関	35	22	62.9	79.4
出水郡歯科医師会	31	13	41.9	44.8
出水郡薬剤師会	49	36	73.4	64.0
阿久根市	1	1	100	100
出水市	1	1	100	100
長島町	1	1	100	100

昨年度の調査の回収率に比べ、参加医療機関、歯科医師会の回収率が減少した。

(2) 糖尿病連携手帳（連携パス）活用状況



市町名	活用状況
阿久根市	活用している
出水市	活用している
長島町	活用している

- ・全体の糖尿病連携手帳（連携パス）の活用割合は57.7%（市町を除く）
- ・R4年度と比較して、活用割合が減少している。
- ・参考：川薩保健医療圏の活用割合：57.4%（参加医療機関：70.4%）

### (3) 糖尿病連携手帳の持参状況

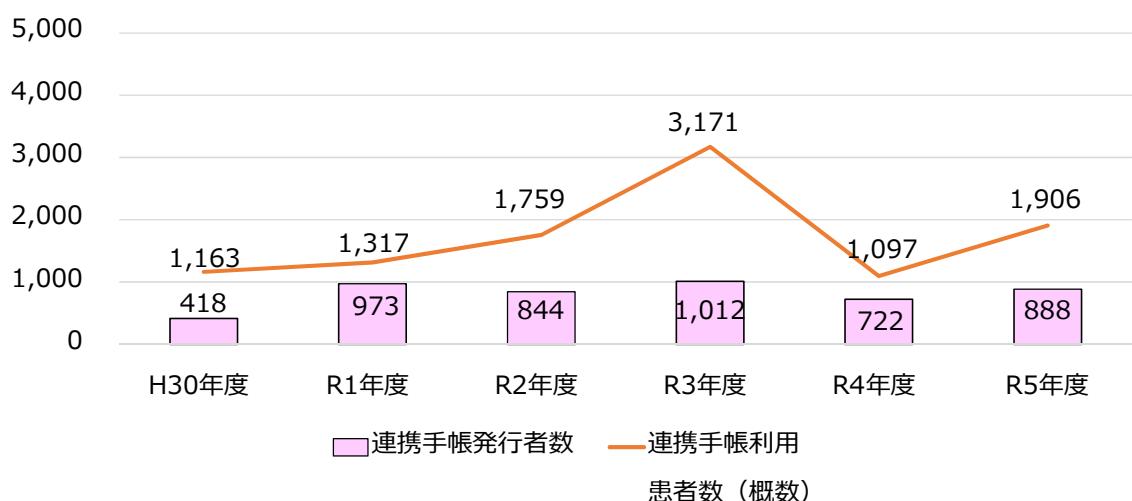
単位 : %

割合	A 大半の患者が手帳を 持参し受診に活用	B 約半数の患者 が手帳を持参 し受診に活用	C 殆どの患者 が手帳を持 参しない	D 該当なし	E 無回答
医療機関	27.3	40.9	31.8	0.0	0.0
歯科医師会	0.0	7.7	92.3	0.0	0.0
薬剤師会	5.6	13.9	80.6	0.0	0.0

- ・参加医療機関では、半数以上の患者が手帳を持参し、受診に活用している。
- ・歯科診療所や薬局においては、C：殆どの患者が手帳を持参しないとの回答が8割以上である。

### (4) 連携手帳発行者数、連携手帳利用患者数（概数）

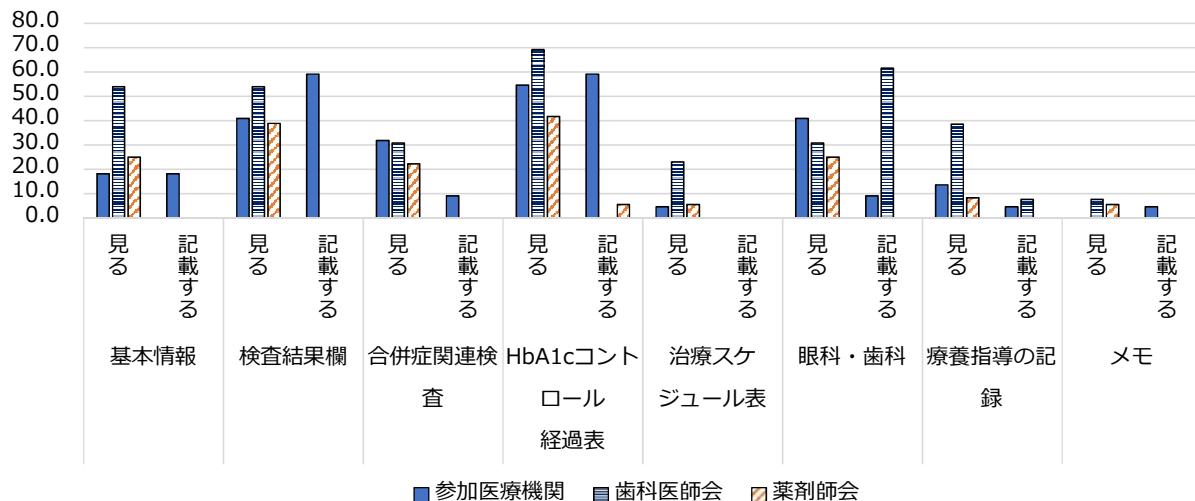
参加医療機関における連携手帳発行者数・利用者数（概数）



- ・参加医療機関における「連携手帳発行者数」及び「連携手帳利用患者数」は増減があり、令和5年度においてはいずれも増加している。

## (5) 連携手帳の活用項目（医療機関、歯科医師会、薬剤師会）

連携手帳の活用項目割合(%)



- 「見る」と回答した割合が最も高かったのは、参加医療機関、歯科医師会、薬剤師会のいずれにおいても「HbA1cコントロール経過表」であった。
- 「記載する」と回答した割合が最も高かったのは、参加医療機関では「検査結果欄」及び「HbA1cコントロール経過表」、歯科医師会では「眼科・歯科」であった。

各関係機関が関係する箇所に確実に記載することで、連携の推進が期待される

## (5) 連携手帳の活用項目（市町：2市1町）

見る	記載する	項目	見る	記載する	項目	見る	記載する	項目
3	1	基本情報	2	1	HbA1cコントロール経過表	3	3	療養指導の記録
3	1	検査結果欄	1	0	治療スケジュール表	0	0	メモ
2	0	合併症関連検査	3	1	眼科・歯科			

- 市町においては、基本情報や検査結果等を中心に確認し、療養指導記録について記載している。

各関係機関が関係する箇所に確実に記載することで、連携の推進が期待される

## (6) 糖尿病連携手帳の具体的な日頃の活用方法 (抜粋)

### 【参加医療機関】

- ・糖尿病のコントロール状況、合併症の有無の確認
- ・医師より患者への指導説明
- ・外科的処置をする際に、通院先・HbA1c、基本情報を確認している
- ・眼科との連携を図る
- ・定期診察時の確認、指導
- ・検査結果の記載・確認をして、情報を共有している。
- ・他科受診時のデータ状況確認

### 【歯科医師会】

- ・歯科衛生士が、口腔ケア後に持参された方には歯科の項目を記入している
- ・外科処置の可否判断にHbA1cの検査結果を利用している
- ・月に一度、歯周病予防も兼ねてスケーリングに来ていただいている。口腔中のチェック、患者様にも前月と比較して説明できて意識の向上につながっている様に思う。
- ・歯周病患者さんの歯周病の治療と検査結果欄、HbA1cの経過表の変化。抜歯時のHbA1cの数値、その他検査結果を診て抜歯の可否の判断指標にする。

## (6) 糖尿病連携手帳の具体的な日頃の活用方法 (抜粋)

### 【薬剤師会】

- ・血圧、HbA1cなど確認し服薬指導の参考にしている。
- ・検査結果の薬歴の記載及び記載
- ・HbA1cが8以上の患者には眼科に行くよう勧める。
- ・検査値の確認、薬歴へ記載、服薬指導に役立てる。
- ・検査結果をみて患者様と話す

### 【市町】

- ・糖尿病重症化予防プログラムやその他の保健指導時に活用している
- ・糖尿病重症化予防事業の初回面接にて新規交付。その後、訪問・面接にて確認・記入し、血糖管理に活用している。

## (7) 糖尿病連携手帳を使ってみて良かったこと (抜粋)

### 【参加医療機関】

- ・眼科受診の際に持つていってもらうことができる。

### 【歯科医師会】

- ・HbA1cの状態を確認してから歯科処置を行うようにしている（特に外科処置の時）

### 【薬剤師会】

- ・何故HbA1cが安定しないのか共に考える事が出来ている。
- ・眼科で受けた治療内容が確認できた。
- ・薬増減の理由が分かりやすい。
- ・服薬指導で食事療法や生活習慣の見直しにつながる。

### 【市町】

- ・対象者にも状況確認を行うが、記憶が曖昧なことが多い。そのため、連携パスを見ることで今までの経過をすぐに把握することが出来る。
- ・医療機関で検査結果を記入されており、患者さんの自己管理に役立っていると感じた。（悪い値の原因を患者自身が話してくれ、血糖コントロールの目標をしっかりと意識されている。）

## (8) 関係機関に求めること (抜粋)

### 【参加医療機関】

- ・眼科等、合併症の状況。血糖、HbA1cの記載

### 【薬剤師会】

- ・HbA1cの推移と眼底状態
- ・薬の変更時の理由
- ・低血糖の発症有無、頻度

### 【市町】

- ・手帳を提出しても、医療機関で記入してくれないという患者さんの意見があった。

## (9) その他御意見 (抜粋)

### 【参加医療機関】

- ・持参しない方が多い
- ・糖尿病患者さんに関しては、年1回の心電図やBNPチェック等が推奨されているので、もっと糖尿病手帳の活用をしなければと思う。

### 【歯科医師会】

- ・医科主治医が、できるだけ歯科受診を勧めてほしい。
- ・患者さんに、歯科を受診する際に糖尿病連携手帳を持参するように告知していただきたい。

### 【薬剤師会】

手帳が有料（送料）のため在庫確保が出来ていない。

## まとめ

- ・出水保健医療圏における糖尿病連携手帳の活用割合は医療機関において63.6%であり、全体的にみても活用割合が減少している。
- ・糖尿病連携手帳を患者が持参した場合には、HbA1cコントロール経過表や検査結果、歯科、眼科の受診状況、を確認している機関が多く、各関係機関が関係する箇所に確実に記載することで連携の推進が期待される。
- ・「糖尿病連携手帳を持参していない方が多い」との意見や、「連携パスを見ることで今までの経過をすぐに把握することができる」との意見があり、医療機関や薬局、歯科診療所等の関係機関を利用する際には、必ず連携手帳を提示するよう患者や家族への声かけを行うとともに、各関係機関が手帳を積極的に活用し、継続してデータを記載することで、連携を図っていく必要がある。
- ・糖尿病連携手帳の提示について、患者への声かけや立札、ポスターの活用、広報誌等により、患者が連携手帳を提示を促すよう周知を図る必要がある。

## 糖尿病地域医療連携体制に係る各関係機関の役割について



## 糖尿病地域医療連携手帳（連携パス）の活用メリット

### (1) 診療目標やプロセスの共有化

診療の目標やプロセスを医療機関同士で共有することにより、より効果的で効率的な医療サービスの提供が行える

### (2) 平均在院日数の短縮化

急性期・回復期を通じての平均在院日数の短縮が図られる

### (3) 病院間の診療内容に関する説明の不一致の解消

診療内容に関する医療機関間での説明の不一致の解消が図られる

### (4) 患者・家族の治療意欲の向上

診療の目標や治療の経過を患者・家族と共有することにより、患者・家族が主体的に治療に取り組むことができる

### (5) 連携医療の質と効率の向上

利用状況調査の分析により、連携医療の質と効率の向上につなげていくことが可能となる

## 糖尿病連携手帳を柱とした医療連携



2

3

## 次年度調査について

・昨年度の糖尿病連携パス運営委員会(書面開催)において、R6年度は右の調査票により連携パスの利用状況調査を行うことで承認をいただいておりましたが、今年度調査では利用できておりませんでした。

・ついては、次年度の調査において右の調査票を利用し、連携パスの利用状況調査を行うこととさせていただきます。

### 令和6年度 糖尿病連携手帳(連携パス)利用状況調査票(案)

令和6年度の様式調査については以下のとおり調査を行う予定としておりますが、調査方法や内容について御意見がありましたら、別紙意見回答用紙へご記入ください。

#### 1 調査対象

- ・ 参加医療機関
- ・ 薬局
- ・ 栄養士会
- ・ 歯科診療所
- ・ 市町

#### 2 調査の時期

令和6年4～5月頃

#### 3 調査方法

FAXまたは電子申請

#### 4 調査内容

- (1) 令和5年度中の糖尿病患者の、糖尿病連携手帳(連携パス)の活用状況で最も当てはまるものに○をお願いします。  
 ( ) 大半の患者が連携手帳を持参している ( ) 約半数の患者が連携手帳を持参している  
 ( ) ほとんどの患者が連携手帳を持参しない

- (2) 糖尿病連携手帳(連携パス)の令和5年度の発行者数を教えてください。(新規・再発行を含む)  
 (令和5年4月1日～令和6年3月31日まで) 約( )人

- (3) 糖尿病連携手帳(連携パス)を利用されている患者数(概数)を教えてください。( )人

- (4) 糖尿病連携手帳(連携パス)を活用していますか。

- ( ) 活用している ( ) 活用していない  
 ( ) 「活用していない」と回答された方にお尋ねします。

- (4) -1 糖尿病連携手帳(連携パス)のどの項目を活用していますか？(複数回答可)  
 よく見る項目に○を、記載する項目は○をつけてください。

見る	記載する	項目	見る	記載する	項目
基本情報 検査結果欄 合併症検査欄		はAICの20～経過表 治療方針表(検査計画) 眼科・歯科			療養指導の記録 メモ

- (4) -2 糖尿病連携手帳(連携パス)の具体的な日頃の活用方法を教えてください。

- (4) -3 糖尿病連携手帳(連携パス)を使ってみて良かった事等エピソードがあればお書きください。

- (4) -4 糖尿病連携手帳(連携パス)について、他関係機関に求める記載内容についてお書きください。  
 (例えば、歯科の先生は、どのような情報が欲しいですか。循環器の先生は、どのような情報が欲しいですか。)

- (4) -5 その他糖尿病の地域医療連携に関する御意見があればお書きください。

- ? 立札やポスター、マールくんシールの活用状況について教えてください。  
 - 立札について ( ) 活用している ( ) 活用していない  
 - ポスターについて ( ) 活用している ( ) 活用していない  
 - マールくんシールについて ( ) 活用している ( ) 活用していない